



# 第一礼拝次第

説教：渡真利彦文牧師  
司会：安富英成執事

前奏			
頌栄	540	会衆	
主の祈り		〃	
プレイズ	「どんな時でも」 「聖い御霊よ」	〃	
聖書朗読	ルカ 19:28-44	司会	
祈禱	(新約聖書 p147)		
スペシャル	愛星スタッフ		
賛美	130	会衆	
説教	「あふれる涙」	牧師	
祈禱			
賛美	新生300	会衆	
献金			
報告		司会	
頌栄	新生672b	会衆	
祝禱		牧師	



# 第二礼拝次第 (19:00)

説教：渡真利文三牧師  
司会：渡真利彦文牧師 奏楽：渡真利きりえ姉  
聖書 フィリ 1:1-3(新約聖書 p361)  
メッセージ「わたしの愛し慕う兄弟たち」  
プレイズ「わたしたちはろばの子」  
「ホサナ王の王イエス」  
賛美 新生207 新生227



# ファミリー礼拝 (9:00)

説教：渡真利千佳子姉  
司会：知念尚美姉 奏楽：渡慶次さやか姉  
聖書 マタイ 27:45~56  
メッセージ「そのとき、神はおられた」

「ちいろば」  
保郎は何日か前、聖書のゆ伝を読んでいた。そこにはこうあった。  
くろばといふ山の麓なるベテパゲ及びベタヤに近づきし時、イエス二人の弟子を遣わさんとして言ひ給ふ、『向かひの村にゆけ。其処に入らば、一度も人の乗りたる事なき驢馬の子の繋ぎあるを見ん、それを解きて牽ききたれ。誰かもし汝らに「なにゆゑ解くか」と問はば、斯く言ふべし「主の用なりと』」>・・・「ぼくはな、イエスマが、なんで子ろばなんぞに乗ろうと思ったんか、考えたんや」・・・「ぼくがな、もし何かに乗ろうと思つたら、ろばなんぞには乗らん。馬に乗るやろな。嘘かほんとか知らんが、ろばはな愚図な愚鈍な動物やと聞いとる。ぼくなら、ろばには乗らん」「ぼくもそうやな」  
「ところがイエスマは、一度も人を乗せたことのない子ろばに乗ろうとされた。ぼくなら、ぜめて何度も何度も人を乗せたことのある親ろばを使うわ。一度も人を乗せたことのないいう以上、ほんとの子ろばや、ろばの赤ん坊や。乗り物として下の下や。そう思った時、林な、あ、ぼくも人間の中の下の下やと思つたんや。人を乗せたら、何歩で参るかわからへん、そんな力なしやと思つたんや。けどな、イエスマはな、小さな子ろばに乗って、エルサレムに入場なさつた。ぼくもな、主の用なりと言われたら、愚図やけど、イエスマを乗せてどこへでも行こ、そう思つて眠れへんかつたんや」保郎の目は燃えていた。

三浦綾子「ちいろば先生物語」  
(195 ページ抜粋) より